

令和6年能登半島地震における給水支援班の活動

国際医療救援部
主事 三浦 知紘

活動期間：2024年1月19日～1月23日

活動場所：七尾市（七尾市立山王小学校及び和倉小学校）

背景

日本赤十字社は、海外での災害等を支援するための人材と資機材を有しており、そのノウハウを生かして、これまで、2011年の東日本大震災や、2016年の熊本地震、2018年の西日本豪雨などの国内災害においても、断水で困っている避難所等において少しでも環境を整備しようと、生活用水の供給、温水シャワー、洗濯機の設置を行った実績があります。

七尾市からの支援要請を受けた日赤石川県支部は、日赤本社に給水衛生支援班の出動を要請しました。1月15日に、本社と熊本赤十字病院から国内外での支援経験を有する3人の調査班が石川県に派遣され、避難所となっている山王小学校と和倉小学校において、生活用水を確保し、手洗い場、シャワー、洗濯機をそれぞれ設置して、被災者の皆さまにお使いいただけるよう現地の関係者と調整しました。1月19日時点で、七尾市は約1万7800戸が断水しており、送水再開まで2か月余りかかる見通しでした。

活動内容

元々現地に入っていた調査班と今回新たに加わった3名（熊本赤十字病院1名、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院1名、報告者）の合計6名で設置班として活動を開始しました。初日は熊本赤十字病院からの資器材が無事に届いているかを日通の倉庫に確認し、設置のための輸送スケジュールを日通担当者と確認しました。

翌日20日より本格的に設置作業を開始しました。山王小学校での設置作業は寒い雨の中での作業となりましたが、設営はほぼ完了しました。途中、加圧ポンプが動かないなどのトラブルもありましたが、無事に復旧し、残すはプールからの接続、洗濯機の試運転、シャワー一室他の備品整備のみとなりました。

1月21日、和倉小学校での設置作業でも体育館のブレーカーが落ちる、ボイラーから水漏れしているなどのトラブルが生じました。ボランティアに定期的に来られている方が、市役所職員よりも学校事情に詳しく、新たに別系統の電源を確保することができ、電気の問題は解決しました。ボイラーに関しては、現地入りしていた関連業者から後日無償で手配していただきました。

1月22日それぞれの小学校での最終調整を終えて、メディア対応の後、正式に両小学校で稼働が開始しました。現地に使用方法、メンテナンス方法を含めた引継ぎを行い、引継ぎ後一週間は維持管理班（本社1名、熊本赤十字病院1名）が現地に残り、トラブル等の対応を行いました。

避難されている方々からは、「これまで当たり前だったこと一つ一つが奇跡のように感じられる。」「手洗いしていましたが、フリースなどは水分を多く吸い込むのでペットボトルの水が何本も必要になり洗うのが難しかった。洗濯機だと、簡単に洗えるのでとてもありがたい。」といったお声をいただきました。

日本赤十字社は医療を提供する以外にも、様々な方法で被災地を支援しています。これからの復興には時間がかかるかもしれませんが、一刻も早く被災者の方々が元の生活に戻れることを願っています。

写真

